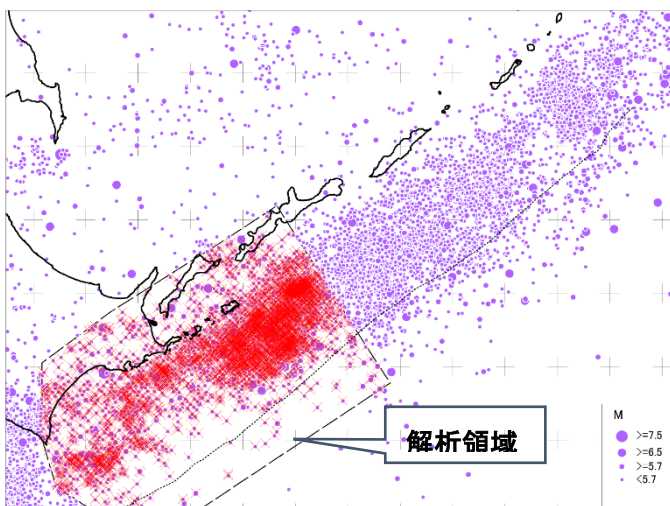
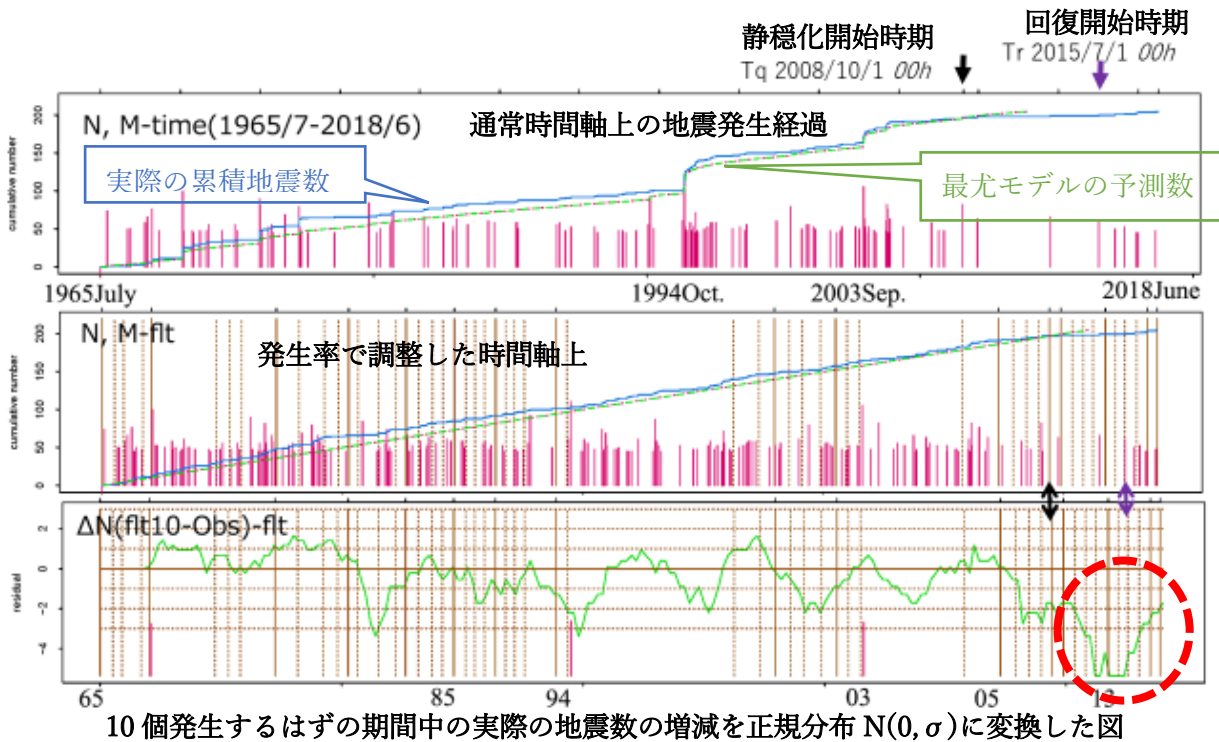


北海道東方沖の相対的地震活動度の静穏化と現状

松浦 律子 (公益財団法人地震予知総合研究振興会)

ポイント

- 3σ を越える相対的静穏化は 2011 年の地震前にも東北地方東方沖広域に同様に検出
- 北海道東方沖の 3σ 超の相対的静穏化は、2008 年 10 月頃から約 7 年間継続後、2015 年後半から回復期に入って現在既に 3 年近く経過している可能性が高い
- 津波堆積物から指摘される 17 世紀の大津波から 400 年経過している点、1973 年根室半島沖は小規模だった点、はこの静穏化と対応する地震の規模が大きい可能性大を示唆
- 北海道東方沖で巨大地震が発生すれば津波は根室・釧路地方等北海道東部にとどまらず東北地方にも及ぶことを改めて認識して貰う必要がある
- 相対的变化検出からは年単位の注意喚起とエリアの抽出のみ。地殻変動等、このエリアに関する戦略的多种調査と解析検討に早急に取り組む必要がある



JMA 震源(本年 7 月取得)で 1923 - 2018June M4.5 以上深さ全て (紫円)から、破線領域を選択分析には M5.7 以上 1965July 以降を使用